

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和5年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 69 人

② 算数 69 人

#### 5 留意事項

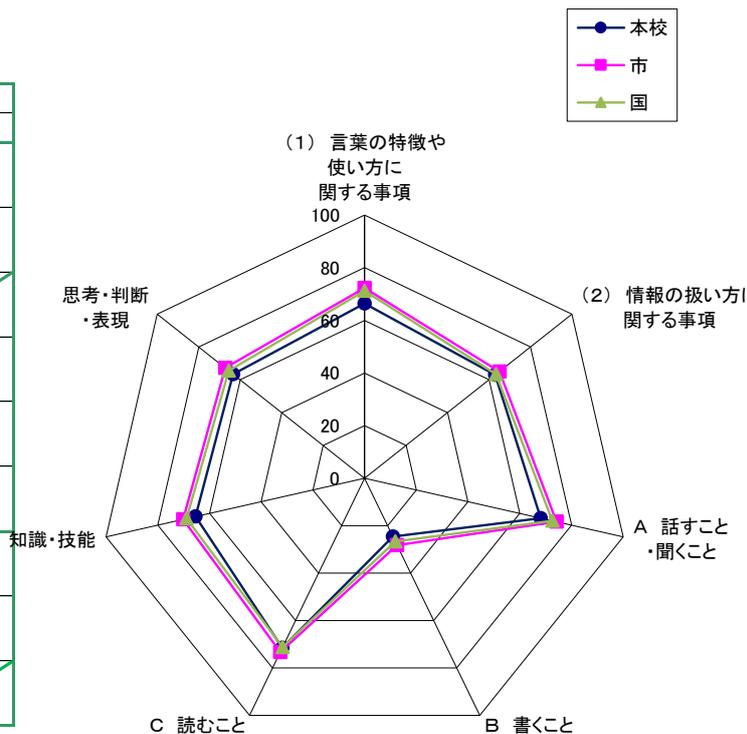
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立清原中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	66.4	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	63.0	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	68.1	74.2	72.6
	B 書くこと	24.6	28.2	26.7
	C 読むこと	71.5	73.3	71.2
観点	知識・技能	65.4	70.2	68.9
	思考・判断・表現	63.4	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

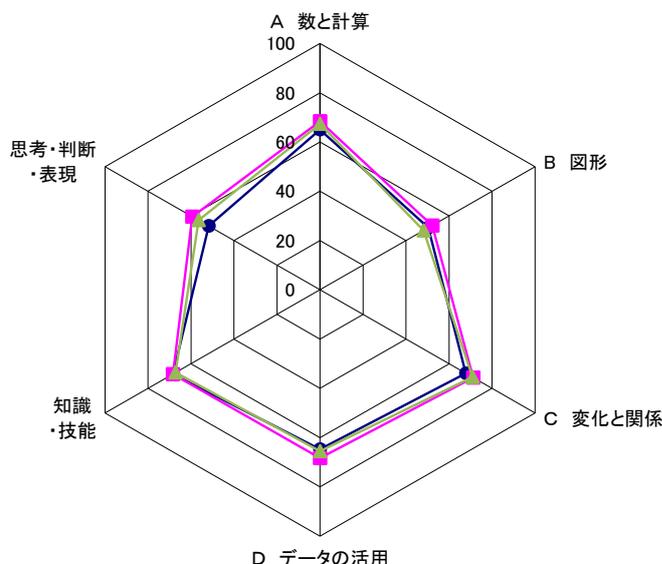
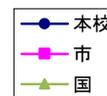
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○文章の種類とその特徴について理解しているかどうかを見る設問では、全国平均を上回った。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う設問では、全国の正答率を大きく下回った設問があった。 ●日常よく使われる敬語を理解しているかどうかの設問では、全国平均を下回った。	・漢字テストや漢字ドリルでの学習の機会を生かし、目標をもった準備を促したり、既習の漢字を練習する機会を設定したりする。練習の際には、様々な読み方を意識した熟語で練習させる。 ・日常的な敬語の使用を促し、より適切な表現を称賛するなど、正しい敬語を使うことへの意識を高める。
(2) 情報の扱い方に関する事項	○情報と情報の関係付けの仕方、語句と語句の関係の表し方を理解しているかどうかの設問では、全国平均を上回った。 ●原因と結果など、情報と情報との関係について理解しているかを見る設問では、全国平均を下回った。	・説明文の読解や、文章を書く学習において、部分と全体、原因と結果などの情報のもつ関係性を示し、文章を分類する経験を積ませる。
A 話すこと・聞くこと	●必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える設問では、全国平均を下回った。 ●目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる設問では、全国平均を下回った。	・話し合い活動を意図的に設定し、話し手の意図を考える機会を設定する。 ・いつ、どこで、だれが、何を、どうした、のような文章の基本構造を改めて確認する機会を設定し、資料から読み取った情報を適切に表現できる。
B 書くこと	●図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかの設問では、全国平均を下回った。	・日記指導の機会を活用し、自分の考えを正しく伝えられるよう、整った文型で書くことを指導する。また、題材を工夫することで、書くことそのものへの苦手意識を軽減させる。
C 読むこと	○目的を意識しながら、中心となる語や文を見つけて要約したり、文章を読んで理解したことをまとめる設問では、全国平均を上回った。 ●文章と図表を結び付けて、必要な情報を見つける設問では、全国平均を下回った。	・文中の大切な事柄に線を引かせたり、文のつながりを考えさせたりしながら、内容を正確に読み取れるよう今後も継続して指導していく。

# 宇都宮市立清原中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	65.0	68.4	67.3
	B 図形	50.4	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	67.8	71.2	70.9
	D データの活用	64.7	68.3	65.5
観点	知識・技能	68.4	68.4	67.2
	思考・判断・表現	51.8	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○ $(151+49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める設問では、全国平均を大きく上回った。 ●筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ問題では、全国平均を下回った。	・量をイメージして考えられるように普段から図に表す指導を多く取り入れる。 ・計算問題において、計算の手順を、図や言葉、数字で表したり、説明したりする経験を多く積ませる。
B 図形	○テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く設問では、全国平均を大きく上回った。 ●正三角形の意味や性質について理解しているのかどうかを見る設問では、全国の全国平均を下回った。	・図形の性質をより深く理解できるよう、算数的な活動を多く取り入れたり、ICTを効果的に活用したりした授業を工夫する。 ・図形の性質を理解したうえで、筋道を立てて考える活動を多く取り入れる。
C 変化と関係	○伴って変わる2つの数量の関係を基に、数を求める設問の正答率は、全国平均とほぼ同じである。 ●椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く設問では、全国平均を下回った。	・多様な場面の問題を解くことによって、割合の意味を理解できるように指導する。 ・伴って変わる2つの数量が比例の関係にあることを理解したうえで、筋道を立てて考え、知りたい数量の求め方を説明できるような指導を心掛ける。
D データの活用	○日数と人数の2つの座標で表された二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかを見る設問では、全国平均をやや上回った。 ●2つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く設問では、全国平均を下回った。	・グラフや表から分かる事柄を正しく整理できるように視覚的資料を活用したり、生活の中にあるグラフや表に着目させるなどして、学習の機会を意図的に増やしながら指導する。

## 宇都宮市立清原中央小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」に肯定的な回答をした児童が、全国平均よりも大きく上回っていた。最上級生として、自分に合った身近な目標を立て、達成するための取組を検討し、達成した充実感を味わうというプロセスを繰り返し経験したことや、下級生に見られている意識をもちながら行動に責任をもち行ってきた成果だと考えられる。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に肯定的な回答をした児童の割合も、全国平均より上回っていた。いじめゼロ強化週間や学級活動を通して、児童に、思いやりの心をもつ大切さや協調性を育ててきた成果と考える。今後も継続して児童を認め励ます機会を多く設けていきたい。

○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に肯定的な回答をした児童の割合が82.3%で全国の76.8%を5.5ポイント上回っている。また、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に肯定的な回答した児童の割合が66.2%で、全国平均の57.8%を8.4ポイント上回っている。さつまいもの食農体験や学校祭などで地域の方々と関わる機会があるだけでなく、総合的な学習の時間において地域の環境や職業調べなどが、地域の一員としての意識の向上の要因として考えられる。

○「国語や算数の勉強が大切だと思うか」についての質問の肯定的回答率は、全国の肯定的回答率を、国語で2.9ポイント上回り、算数は0.1ポイント、下回った。国語は引き続き、学習内容の重要性について児童に伝えながら授業をし、算数は日常的な問題場面の想定をさせるために、具体的な文章問題を多くし、児童に必要感がもてるようにしていく。

○英語で「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか」という質問への肯定的回答率、61.8%で全国の52.5%を9.3ポイント上回っている。今後も、英語でのコミュニケーション活動や、ジェスチャーなどといった国際的に通用できるような活動を継続していきたい。

●国語、英語の「勉強が好きですか」という質問の肯定的回答率が低く、国語で4.2ポイント、英語で12.0ポイント全国の肯定的回答率を下回っている。苦手意識をもつ児童を中心に発問や動機付けの工夫をしていきたい。

●「読書が好きですか」という質問の肯定的回答率は、全国の肯定的回答率より8.6ポイント下回っている。朝の読書の時間や学校図書館を有効活用し、読書のよさを広められるようにする。

## 宇都宮市立清原中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えをもち、豊かに表現できる力の育成	・グループなどでの話し合い活動を積極的に取り入れることで、自信をもって発表したり、意欲的に学習に取り組んだりできるように支援している。	・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の設問では、肯定的回答をした児童の割合が76.5%で全国平均の81.8%より5.3ポイント下回っている。 ・「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」の設問では、肯定的回答をした児童の割合が63.3%で全国平均の63.7%を0.4ポイント下回っている。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	・家庭学習の強調週間を設け、保護者に通知を出すなど共通理解を図りながら、習慣が身につくように指導している。	・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の設問では、肯定的回答をした児童の割合が70.6%と全国平均の70.7%を0.1ポイント下回っている。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
質問紙調査において、学校全体で重点的に取り組んでいることの成果が見られていなかったため、引き続き課題として継続する。	授業の最後の振り返りの時間をしっかりと取る。	授業終わりの振り返りの場面では、本時のめあてを再確認し、話し合いなどの学習を通して、自分の考えが深まったところや広まったところの振り返りができるような声掛けを行う。また、学習したところを家庭で復習できるよう、学習する内容や方法などの提案をする。